



18歳までに

講習授業では数学や理科を担当することが多いので、塾生から「塾長は理系だったんでしょ。」とよく言われます。実は学生時代は文系の社会心理学というものを学んでいました。でもこの学問は確かにかなり理系に近い面もありました。ある実験では、初対面の5人の話し合い場面と言いながら、本当はそのうちの4人はサクラでひとりだけが被験者です。話し合いの途中で4人は示し合わせてひとつの方向に結論を持っていきます。初めの意見からどれだけ引きずられるかを調べたのですが、話し合いのテーマによって結果は違いました。いろいろな形に見えるあやふやな図形では他人の意見に引きずられやすいが、経験したことがあり自分の判断に自信を持っているテーマは引きずられにくい。予想された結果でしたが、統計的に（ここが数学的で理系の要素）確かめられると、あらためて集団のなかの人間というものがわかりました。

さて、早ければ来年夏の選挙で18歳からの選挙権が実現します。せっかく手に入れた権利なので、ぜひ行使してもらいたいのですが、それまでに培ってもらいたいことがあります。それは判断力です。普段から、情報をとらえて自分で考える、自分で経験してみる、そんなところから判断する力が育っていくはず。それなのに、いつも空気を読んで周りに合わせていたり、行き当たりばったりでその場で「エイッ」と決めていたりでは判断する力は身に付きません。例えば数学の因数分解にしてもみんながボヤクように、社会に出てから実際に使う場面はほとんどないでしょう。しかし、論理力や判断力を養うためにはとても良いトレーニングです。見通しを立てる→当てはめてみる→確認する の流れを簡単に練習できる機会はそうそうありません。コンピューターに不具合が起きた時に専門家は「症状を切り分ける」というやり方で解決します。理科実験での「対照実験」の方法に似ていますが、これもより確かな判断を下すための方法です。18歳になるまでにしておくべきことは、案外こういう基本的なことではないでしょうか。